

ラボから新技術

稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発

3

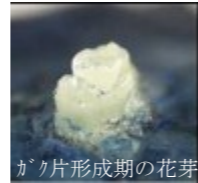
「くまもとの赤」ブランド

イチゴ「ひのしずく」の 最適定植時期と年内収量確保

本県で育成した「ひのしずく」は、「大きくておいしい」と好評です。しかし生産現場では、^(*)花芽分化が遅いという特性があり、その対策として、^(**)夜冷短日育苗技術を確立しましたが、年内収量をさらに安定させるために、最適な定植時期と気象の影響を軽減するための技術を開発しました。



肥厚後期の花芽



ガク片形成期の花芽

2. 年内収量確保

台風の影響等により定植が遅れる場合は、**定植前にポットへ液肥を施用すること**で年内収量を確保できます。



夜冷短日育苗施設

1. 最適な定植時期

夜冷育苗の定植に適した花芽分化ステージは、「**肥厚初期～後期**」です。

ガク片形成期で定植すると、特に低温の年に年内収量が大幅に減少します。

農産園芸研究所
野菜研究室
田尻研究参事



技術の詳細はコチラへ <H26 農業の新しい技術>

<http://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/91202.pdf>



海外進出 香港へ輸出

目次

ラボから新技術

肥育牛の体重推定法 P.2

「肥のあかり」の日焼け果軽減 P.3

「ひのしずく」の年内収量確保 P.4



天草大王は、昭和初期には絶滅していましたが、当農業研究センターが選抜交配を繰り返して、平成13年復元に成功しました。

国内最大級の肉用鶏で、雄の最大のものでは体重は6kgを超えています。

弾力のある歯ごたえとコクのある味で、大変おいしい鶏肉です。

今年3月末に県養鶏農協が初の海外進出となる香港向け輸出を行いました。

また、天草大王生産販売組合は、イスラム圏への輸出を視野に国内向け「ハラール認証」を取得しています。

今後の天草大王の羽ばたきから目が離せません。

天草大王

世界にはばたけ

「ハラール認証」取得

*1「花芽分化」とは

生長点が葉芽から花芽へ変わろうとする時期のこと。

イチゴは短日植物に分類され、日が短くなり、気温が下がると花芽分化を迎えます。

花芽分化ステージは、開花期をコントロールするための大きな目安となります。

<分化ステージ>

未分化→肥厚初期→肥厚中期→肥厚後期→2分期→ガク片形成期

*2「夜冷短日育苗技術」とは

短日植物に対して夜温を下げるとともに、自然光を遮断して、日長を制限し、一日の暗期を長くすることで開花を促す技術のことをいいます。

イベント情報
(7~10月)

詳しくは、各研究所にお問い合わせください。

●茶業研究所

・7/10
熊本県茶品評会(荒茶の部)
・8~9月
熊本県茶業技術者連盟
紅茶製造技術研修会

●畜産研究所

・7/15
自給飼料生産研修会

●農産園芸・生産環境研究所

・8/7
作物・園芸部門成果発表会

●農産園芸研究所

・9/11・12九州沖縄農研
H26暖地地域水稲立毛検討会

●果樹研究所

・9/11
果樹部門成果発表会

●い業研究所

・10月中旬
熊本県い草製品品評会
審査及び表彰式

農研の四季



胸囲と腹囲の測定値から肥育牛の体重を推定

肉用牛の肥育経営の農家において、肥育牛の発育を把握するには体重測定が重要です。

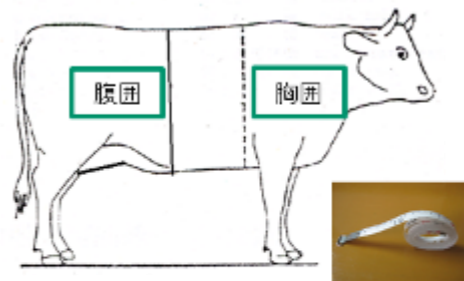
しかし、体重計を持っている農家は非常に少ないため、体重測定はほとんど実施されていないのが現状です。

そこで、農家が簡単に測定できる牛体部の測定値から、体重を推定する方法を開発しました。

1. 胸囲と腹囲を測る

巻尺であか牛または黒牛の去勢肥育牛の胸囲と腹囲を測ります。

ただし、エサを食べた後、すぐ測ると誤差が生じやすいため、**飼料給与後2時間以上経過してから測定すること**がポイントです。



胸囲: 肩後から約3cmの部位の胴回りの長さ
腹囲: 最後肋骨の付け根付近の胴回りの長さ

図1 胸囲と腹囲の測定場所と巻尺

2. 体重を推定する

下記①または②により 肥育牛の体重を容易に推定することができます。

① 計算する

◆あか牛
推定体重 $k g = 0.003665 \times (\text{胸囲 } c m + \text{腹囲 } c m)^2 - 105.723$

◆黒牛
推定体重 $k g = 0.003679 \times (\text{胸囲 } c m + \text{腹囲 } c m)^2 - 121.103$

② 早見表を見る

早見表で、胸囲と腹囲の合計値を見ると推定体重が分かります。

胸囲+腹囲(cm)	推定体重(kg)
431	575
432	578
433	581
⋮	⋮

*早見表が必要な方は、当センターHPからダウンロードして頂くか、情報課(096-248-6423)へお問い合わせください。



畜産研究所
大家畜研究室
守田研究参事

技術の詳細はコチラへ <H26 農業の新しい技術>

<http://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/91212.pdf>



樹冠表層摘果+稔枝で極早生温州「肥のあかり」の日焼け果軽減

気候温暖化に伴う夏秋期の高温や強日射、少雨等により、カンキツの日焼け果が多発生する年が増加しており、特に極早生温州での発生が増加しています。

1. 樹冠表層摘果

現場では、日焼け果軽減対策として、**(*)樹冠表層摘果**が行われています。しかし、それだけでは、樹冠中部及び上部にある立った側枝の果実では日焼け果が発生してしまいます。



2. 樹冠表層摘果+稔枝

そこで、今回開発したのが、「**樹冠表層摘果**」と「**稔枝**」を組み合わせた方法による**日焼け果軽減技術**です。

「稔枝」とは、7月中下旬に樹冠上・中部の日焼けしそうな果実が着果している2~3年生側枝を、果実に直射日光が当たらないように、その基部あたりをひねりながら下垂させる方法です。

稔枝をする際は、枝を折らないように注意し、90~180度ひねります。



この技術を用いることで、商品価値が劣る日焼け果の割合が減少し、健全果率が向上することで、農家の所得向上が期待できます。

果樹研究所
常緑果樹研究室
川端研究主任



技術の詳細はコチラへ <H26 農業の新しい技術>

<http://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/91214.pdf>



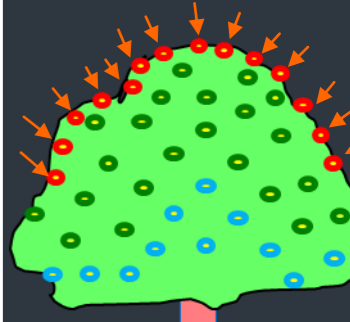
*「樹冠表層摘果」とは

粗摘果時に樹冠表層部の直射日光が良く当たり日焼けしそうな果実、上向きで果梗部(へた部)の枝が太く大玉になりやすい果実を中心に摘果し、残りの果実は葉裏に隠れるようにならせる摘果方法です。

着果が少ない場合は、樹冠表層部の摘果を行うと摘果し過ぎる恐れがあるので、日焼けしやすい南側の上向き果実のみを摘果するなど樹全体の着果量確保を考慮して行って下さい。



赤印の果実を摘果する



[樹冠断面図]